

取組名称	いのちはめぐる 鶏から大地へ～いらないものは何もない みんなで循環農業～			団体設立後の経過年数	21年
応募取組主体名称	社会福祉法人くりのみ園	活動地域	長野県小布施町	応募取組の活動年数	21年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

就労支援事業として平飼い養鶏を行い、日々産出される鶏糞を利用して穀物や野菜などを有機栽培している。養鶏の飼料は自家配合を行い、その原料として地域で委託栽培をしている飼料米の他、食品加工場、卸業者、小売店から出る未利用資源を譲り受けて活用している。町内の休耕地など5ヘクタールを開墾して循環型の環境保全型農業を行い、美しい里山の景観や食の安全を守るとともに障害のある方の就労、自立の場として支援を行っている。

実績の要旨

- 農業経営基盤強化促進法による「認定農業者」認定
- 「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律に基き「6次産業化」認定
- 第10回フード・アクション・ニッポンアワード2018において、「おぶせのたまご」受賞
- 日本農林規格「有機JAS」認証

取組評価の要旨	環境への貢献	地域の未利用資源を飼料にして廃棄物を減らしている。平飼い養鶏で出た鶏糞で有機農業を行い、環境保全型農業を行っている。
	社会・経済への貢献	廃棄物処理のコストを下げ、環境負荷を軽減する。有機農業で生物多様性のある里山づくり。多様な就労の場として障害ある方の自立を支援。
	地域資源の活用	休耕地を田畑にして活用。地域の食品を扱う工場、小売店と連携して未利用資源を養鶏の飼料として活用している。
	普及・汎用性	日本農福連携協会に所属してノウフクマルシェに出店。農業研修、職業体験の受け入れ。SNSで活動を発信。
	革新・ユニーク性	昔ながらの「庭先養鶏」にヒントを得て、完全循環型の江戸時代の暮らしを鶏達と共に復活させた。
	継続性	農業研修の受け入れや、特別支援学校や地域の社会協議会と連携をして就労の場となっている。

展望の要旨

未利用資源を活用する養鶏を中心とした循環型農業で安心、安全な美味しい卵、野菜や穀物をつくり提供することで循環型農業の推進したい。